

【論点1】 旧赤星邸の価値や継承すべきものは何か？ ⇒目指すべき将来像(テーマ・コンセプト)	【論点2】 価値を最大限発揮するために必要な工夫や仕掛けは何か？ ⇒保存・利活用に関する基本的方針	【論点3】 具体的にどのような保存や活用を行うと効果的か？ ⇒具体的な利活用検討	【論点4】 今後更に整理・検討すべき点は何か？ ⇒課題や不足している視点
<p>テーマ1:建物と庭との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佇まいや雰囲気 ・中から見える庭の美しさ ・組合せ自体も非常に価値ある ・レーモンドが日本に持ち込んだ、建物の中と外の連続性、半屋外で食事をする空間 ・オリジナルでは藤はなく可動式のテントで外のリビングルームとして使われていた ・建物と庭の一体化 ・建物から庭の眺め ・建物の中も外であるという感覚 ・何もなくていい場所があるのは贅沢 ・五感を満たす憩いの場 	<p>復元・改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体はオリジナルを大事にする ・増築部分は大胆に改修して活用の幅を広げる ・庭に面した修室棟が少し美観を損ねる ・修室棟は居住空間なので撤去し、礼拝棟は残す ・景観上の配慮として、修室棟を減築し樹木を入れる ・入口の門扉を復元 ・建物の保存については徹底的に行い安全性も担保する <p>建物と庭と外構</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物のほか、緑、外塀などの付帯設備を含めた一体的利用 ・東側の通り沿いの大木を活かした公園のような通り ・使い勝手にも配慮 ・庭につながる開口部を開放する <p>開口部のデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の建築の価値観や社会を見せる ・建物と庭との関係性を語る上で最も大事 ・窓が変わると建物と庭の関係性や価値は下がる ・窓のデザインは、庭と中をつなぐ技術 ・特に南側はオリジナルに復元 <p>地域環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭は地域のリビング、市民のためのリビングという方向性 ・人々が三々五々集まって帰るような利活用 ・住環境に配慮した使い方 <p>対象(ターゲット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの世代や価値観の人を巻き込む仕掛け ・子どもが日常的に使える、ここの魅力が伝わるもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・レーモンドの建築に対する思いを反映し、庭を含めた生活シーンを見せ、これを生かした活動をする事で、「生きた」展示プログラムとする ・環境そのものを味わう、この場所に身を置いて時間を過ごす ・あまり決め込まないで運用する ・部屋の貸し出し ・建築好きな人だけでなく、そうではない人も訪れ、利用したくなるしかけ、工夫が必要 ・藤棚のテラスや庭を見てお茶を飲める機会を設ける ・庭でもあり建物の一部でもある場所でお茶を飲む ・お茶をきっかけとして、ここは何だろうと思ってもらう ・カフェのような近所の方々が集まるコミュニティの場 	<ul style="list-style-type: none"> ・接收されたときに改変された部分が建物の景観に大きく影響 ・修室棟は小部屋が多く、管理の面で貸し出しには気を遣う ・使い方のどこにラインを引くか ・同時に多くの人が集まるような利活用は難しい <p>財政負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益性はわずかであってもお金を稼げる仕掛けの検討が必要 ・企業から運営、活用、保存に寄与するような支援を受ける
<p>【テーマ1:コンセプト(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アントニン・レーモンド建築の特徴である建物の中と外の連続性を活かした利活用を行う 	<p>【テーマ1:保存・利活用に関する基本的方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物と庭のつながりや、内と外のつながりのため、開口部の復元を目指す ・本体はオリジナルを大事にし、増築棟部分は活用及び景観を踏まえ、減築も含めた改修等を行う ・建物と庭・外構も含め、住環境に配慮した使い方、使い勝手を工夫する 		<p>【テーマ1:課題や不足している視点(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の復元・修復の範囲 ・増築棟(特に修室棟)の取り扱い ・道路沿いの塀の取り扱い ・庭の整備の方向性 ・運営主体や手法について

論点1 旧赤星邸の価値や継承すべきものは何か？ ⇒目指すべき将来像(テーマ・コンセプト)	【論点2】 価値を最大限発揮するために必要な工夫や仕掛けは何か？ ⇒保存・利活用に関する基本的方針	【論点3】 具体的にどのような保存や活用を行うと効果的か？ ⇒具体的な利活用検討	【論点4】 今後更に整理・検討すべき点は何か？ ⇒課題や不足している視点
<p>テーマ2:暮らしの変遷・歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤星邸を巡るいろいろな歴史的背景 ・「赤星家」や「赤星鉄馬」の歴史そのもの ・歴史の継承 ・文化的価値 ・住宅～修道院で使われたミステリアスな部分も社会的価値の一部 ・修道女会としての歴史、50年にわたる活用 ・庭は歴史的には暮らしの中で意味を持っていた ・今までの価値とこれからの価値 	<p>調査・データ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実関係の詳細な検証 ・レーモンド夫妻はどのように内部空間を作っていたのか ・所有者がどう活用をしたかの振り返り ・誰がそこにいたのか ・地域における赤星邸の位置づけや歴史的背景をデータ化 ・当時の人たちと会話をするような <p>旧赤星鉄馬邸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時武蔵野の風景に建った驚きをどれぐらい取り戻せるか ・建築好きな人でなくとも、話ができるような使い方 ・歴史やレーモンドを学ぶ時に、ファンでなくとも感じられる <p>庭・樹木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修道女会が地域から樹木の寄贈を受けて植えてきた ・木が大きいのは戦禍や開発にさらされなかったという意味 ・庭は設計者がいたのではなく、暮らしの中で作られた ・少なくとも今ある緑をまず大切する ・オープンスペースは、都市の快適な温熱環境に貢献し、都市の防災的に大事 	<p>展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レーモンドの建物は見て回るだけにし、時々イベントを開く形にして、増築建物のどちらかで補うように展示を作り込む ・庭の生活シーンなど、レーモンドの思いやこれからの我々の暮らしにおける意味を見出していくことを含めて展示する ・歴史が俯瞰できるような展示機能 ・レーモンドの建築ギャラリー ・赤星家、修道女会の歴史などを昭和史＝現代史として展示 ・展示を含め、それを生かしていく活動によって活用する <p>活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存や補修をしたり今のまま留めたりと、市民や人々を巻き込んだ色々な活動 ・庭の形成史を作成する等、赤星邸で勉強しながら作っていく ・緩やかに継承していくという仕掛けをオープン後に検討する ・施設整備と利活用の境界が浸透しあう <p>樹木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉の堆肥 ・伐採から製材までを地域の人たちと一緒にやる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史館」のような展示にはならないような工夫 ・見学者が建物を散策するときに、展示が目障りにならないような工夫 ・地域の方々の納得を得ることは、利活用の不適を決める大きなファクター ・植栽のバランスは決して良くない ・樹木の状態や配置、樹種等の課題
<p>【テーマ2:コンセプト(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化的価値を次世代につなげていく ・ここでの暮らしの変遷を知る ・『建築も庭もここにある』という事実を通じて当時の人たちと会話をしていく 	<p>【テーマ2:保存・利活用に関する基本的方針(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景や当時の様子を展示・紹介しながら、リアルな暮らしを想像できるよう、部屋同士のつながりを重視して、間取りの復元を行う。 ・樹木医の診断により、保存できる樹木を選別し、適切に手を入れる ・大きな樹木があって中央に心地よい広がりがあるという大きなフレームを大切にする 		<p>【テーマ2:課題や不足している視点(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途地域制限と都市公園法の規制の範囲内の具体的な利活用内容 ・駐車場、駐輪場の考え方